科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)実施状況報告書(研究実施状況報告書)(平成23年度)

1.	機関番号	1 4 6 0 3	2.	研究機関名	奈良先端科学技術大学院大学
3.	研究種目名	若手研究(B)		4. 補助事業期	間 平成23年度~平成26年度
5.	課題番号	2 3 7 0 0 1 7 5			

6. 研究課題 カーネル法を用いた学習アルゴリズムの情報論的解釈と発展

7. 研究代表者

研 究 者 番 号	研究代表者名	所属部局名	職名
	ワタナベ カズホ	情報科学研究科	助教
1 0 5 0 6 7 4 4	渡辺 一帆		

8. 研究分担者

研	究	者	番	号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職	名

9. 研究実績の概要

混合モデルはクラスタリングや確率密度推定に用いられる学習モデルである。混合モデルの既存の学習法である凸クラスタリング法やカーネルベクトル量子化を含む統一的な学習法を提案し、その有効性を数値実験により検証した。有限混合分布の学習においては混合数を適切に決めることが必要となるが、混合数自体もデータから推定するアプローチの一つとして、混合分布を構成する重み分布に連続分布を含む一般の分布を仮定したノンパラメトリック推定法がある。最尤推定を用いたこの枠組みでは、最適な重み分布が離散分布で与えられること、およびそのサポートの数が学習データ数以下になることが示されている。しかしながら、最尤推定の性質上、与えられたデータに過学習することが起こりやすい。本研究では、最尤推定における対力を関数を一般化した同的関数を構成し、その最小化による推定法を提案した。この目的関数は一つのパラメータを持っており、パラメータが無限大の極限とはカーネルベクトル量子化法の目的関数に一つする。この統一的な目的関数について、離散分布の最適性を示し、それを求める学習アルゴリズムを構成した。また、レニーダイバージェンスやガンマダイバージェンスなどの確率分布間のダイバージェンスの最小化との関係を明らかにした。最尤推定からの偏りと推定の分散を考察し、平均汎化誤差の意味で最適なパラメータの学習データ数に関するオーダーを評価した。人工データを用いた数値実験により、パラメータを調整することで最尤推定の場合に比べて汎化誤差を改善できることが示された。

	₍₂₎ ノンパラメトリック推定	(3) 離散分布	₍₄₎ クラスタリング
(5)	(6)	(7)	(8)
現在までの達成度 区分)(2)おおむね順調	型に准展している		
理由)	引に進成している。		
:記の学習法について、真の	分布のべき乗に比例する分布からのレ	ニーダイバージェンス最小	化という情報論的解釈を与えており
∠誤差の定量的評価を学習デ 評価などが残されており、現	ータ数に関するオーダーにより与えて 在検討している。	いる。この解釈を用いた学	習法の最適設計や汎化誤差のより詳
今後の研究の推進方策 	等 ————————————————————————————————————		
今後の推進方策)			
後はダイバージェンス最小 う。特に正規化最尤法など	化と最大エントロピー原理やミニマッ のミニマックス原理による学習アルゴ への訪問を行う。	クス符号長原理との関係に リズムやモデル選択法につ	:ついて調査し、計算機実験による検 ≀いて情報集収するため、国際ワーク
プに参加し、国外グループ	への訪問を行う。		
外出張の回数を平成24年度	中に増やすことが必要な状況になった	ため、平成23年度の執行計 究グループからの専門知識	·画を見直し、研究費の一部を繰り越 の供与を受けるため海外出張を行う
外出張の回数を平成24年度		 ため、平成23年度の執行計 究グループからの専門知識	-画を見直し、研究費の一部を繰り越 の供与を受けるため海外出張を行う
外出張の回数を平成24年度	中に増やすことが必要な状況になった	ため、平成23年度の執行計 究グループからの専門知識	画を見直し、研究費の一部を繰り越 の供与を受けるため海外出張を行う
外出張の回数を平成24年度	中に増やすことが必要な状況になった	 ため、平成23年度の執行計 究グループからの専門知識	
次年度の研究費の使用計 外出張の回数を平成24年度 平成23年度の研究成果につ 計算ソフトウェアを用い、	中に増やすことが必要な状況になった	ため、平成23年度の執行計 究グループからの専門知識	画を見直し、研究費の一部を繰り越 の供与を受けるため海外出張を行う
外出張の回数を平成24年度	中に増やすことが必要な状況になった	 ため、平成23年度の執行計 究グループからの専門知識	・画を見直し、研究費の一部を繰り越 の供与を受けるため海外出張を行う
外出張の回数を平成24年度	中に増やすことが必要な状況になった	ため、平成23年度の執行討 究グループからの専門知識	画を見直し、研究費の一部を繰り越 の供与を受けるため海外出張を行う
外出張の回数を平成24年度	中に増やすことが必要な状況になった	ため、平成23年度の執行計 究グループからの専門知識	画を見直し、研究費の一部を繰り越 の供与を受けるため海外出張を行う
外出張の回数を平成24年度	中に増やすことが必要な状況になった	 ため、平成23年度の執行計 究グループからの専門知識	画を見直し、研究費の一部を繰り越 の供与を受けるため海外出張を行う

10. キーワード

13.研究発表(平成23年度の研究成果)

〔雑誌論文〕計(3)件 うち査読付論文 計(3)件

著 者 名			論	文 標	題		
K.Watanabe, M.Okada, K.Ikeda	Divergence measures and	d a general fra	amework	for local var	iation	al approximation	
雑誌名		査読の有無		巻		発行年	最初と最後の頁
Neural Networks		有		24		2 0 1 1	1102-1109
	掲載論文のDOI(デジタ	タルオブジェク	ト識別	주)			
10.1016/j.neunet.2011.06.004							

著 者 名			論	文	標	題				
K.Watanabe, M.Okada	Approximate Bayesian es	timation of va	irying b	inomia	al proc	cess				
雑誌名		査読の有無		巻	Ė			発行	年	最初と最後の頁
IEICE Transactions on Fundamentals		有		E94	-A		2	0	1 1 1 1 1	2879-2885
	掲載論文のDOI(デジタ	アルオブジェク	卜識別	子)		•	-		•	
10.1587/transfun.E94.A.2879										

著 者 名			論文	標 題		
K.Watanabe	An alternative view of va	ariational Baye	s and asymp	ototic approxi	mations of free er	nergy
雑誌名		査読の有無			発行年	最初と最後の頁
Machine Learning		有	8	36	2 0 1 1 2	273-293
	掲載論文のDOI(デジ	タルオブジェク	ト識別子)			
10.1007/s10994-011-5264-5						

[学会発表] 計(8)件 うち招待講演 計(1)件			
発 表 者 名			発 表 標 題
宮本敦史,渡辺一帆,池田和司,佐藤雅昭	NIRS-DOT	「のための変分ベイズによ	にる逆問題解法
* 0 00 0		T ***	T
学会等名		発表年月日	発表場所
第55回システム制御情報学会研究発表講演会		平成23年5月19日	大阪大学
発 表 者 名			発表標題
	ブレグマン情	情報量を用いたベイズ学	
学 会 等 名		発表年月日	発表場所
電子情報通信学会ニューロコンピューティング研究会	A	平成23年7月25日	神戸大学
発表者名			発表標題
	Phase diagi		resian approach with ARD prior in NIRS-DOT
学会等名		発表年月日	発表場所
International Joint Conference on Neural Networks		1, Aug, 2011	San Jose, California, USA
発表者名			発 表 標 題
	Minimum va	riational stochastic com	nplexity and average generalization error in latent variable models
学 会 等 名		発表年月日	発表場所
Workshop on Information Theoretic Methods in Sci Engineering (招待講演)	ence and	10, Aug, 2011	Helsinki, Finland

発表者名			発 表 標 題		
宮本敦史, 渡辺一帆, 池田和司	付加的計測	を用いたネットワークトモ	グラフィ		
学 会 等 名	l	発表年月日		発表場所	
電子情報通信学会ソサイエティ大会		平成23年9月15日	北海道大学	70 K -30 M	
も」情報心にテムノシーエノーバム		十/3,25-5/5/15日	70/年起八十		
発 表 者 名			発表標 題		
宮本敦史, 渡辺一帆, 池田和司	アクティブ計	測とパッシブ計測を用い	1たネットワークトモグラフ	1	
					ŀ
	<u> </u>	発表年月日		発表場所	
〒 ム 号 ロ 電子情報通信学会情報論的学習理論と機械学習	エネム	平成23年11月9日	奈良女子大学	光化物加	
电丁得较进估子云得较端的子自连端C%微子自复	灯九云	十成23年11月9日	示及父丁八子		
発 表 者 名			発 表 標 題		
渡辺一帆,池田思朗	混合分布の	ノンパラメトリック推定と最	曼小ダイバージェンス法		
学 会 等 名		発表年月日		発表場所	
電子情報通信学会情報論的学習理論と機械学習	开空全	平成23年11月10日	奈良女子大学	70 K -30 M	
电」自我返信子会自我論り子自母論で域域子自	の九 五	十/3,25年11万10日	示以又1八子		
発表者名			発表標 題		
宮本敦史, 渡辺一帆, 池田和司	アクティブ計	測とパッシブ計測を用い	1たパケットロス率推定法		
学 会 等 名		発表年月日		発表場所	
電子情報通信学会情報論的学習理論と機械学習	研究会	平成24年3月13日	統計数理研究所	75 95 79 771	
で、16代20日子公16代開リナ日生開し成似ナ目)	V1/64	1 77,2770/3101	MODIXAZENI/U/I		

ſ	図遺	= 11	=+	/ N)4生

図書)計(0)件	T	11 NC +1		
著 者 名	i	出版社		
	<u> </u>		発行年	総ページ数
			光门牛	続・ハーン奴
			liii	
			l i i i	
			! ! !	
			1 1 1 1	
			<u>l i i i </u>	

[出願] 計(0)件

(= 300)					
産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	出願年月日	国内・外国の別

[取得] 計(0)件

(म्रांच) मा(१)ा											
産業財産権の名称	発明者	権利者	産業財産権の種類、番号	取得年月日	国内・外国の別						
				出願年月日	1						
					1						

15.備考

http://hawaii.naist.jp/	/ wkazuho/list-e.html			